

令和5年度 教職員及び教職員組織表彰 表彰式

令和5年12月26日(火)
15時30分から16時30分まで
川崎市役所本庁舎2階ホール

- 1 開式
- 2 表彰状授与
- 3 祝辞
- 4 被表彰者による取組内容の紹介
- 5 閉式
- 6 記念撮影

《被表彰者及び表彰組織の表彰の内容及び実践の概要》

教職員表彰

1 川崎市立日吉小学校 山川 淳 学校事務職 (4ページ～)

【表彰の内容】

「先を見通した企画・立案の実現及び管理職・全教職員・保護者・児童も含めた丁寧な対応」

【実践の概要】

学校事務職員として、学校徴収金の扱いについて、各学年の会計担当に説明会の時間を設け、分かりやすい説明書を配布して説明を行っています。また、今年度より、徴収金の振替回数を削減し、学年会計担当者の負担軽減とミス防止を図っています。その運営や説明のための準備については、早い時期から管理職とも相談を重ね、保護者にも納得していただけるよう手順を踏んで進めるなど、先を見通した企画・立案ができています。

学年会計に係わる必要書類もチェックリストを作成し、確実に処理できるようにしています。また予算では、配当予算の現状を全教職員に理解してもらえるよう数字をグラフ化し、経費が多くかかっているものは何なのか、教職員が日頃、消費している費目は何かについてより意識できるような資料を配布するなど、費用の削減を求め、理解を得ています。削減できた予算の使い道として、必要物品の購入に充てることで、全教職員からの理解も得られ、適切に活用することができています。

学校事務職員として、児童との関係づくりも含め、積極的に学校運営に関わり、いわば「チーム学校」としての成果が出ていることが評価されます。

2 川崎市立上丸子小学校 橋永 孝子 総括教諭 (10ページ～)

【表彰の内容】

「川崎市の支援教育の充実につながる組織的な支援教育体制の構築」

【実践の概要】

支援教育コーディネーターとして、不安を抱える保護者に対して傾聴の姿勢を大切にしながら相談に乗り、保護者から厚い信頼を集めています。コロナ禍の状況で不登校傾向の児童が増加した中、取り出し学習室「スマイル教室」での組織的な受入体制の充実を図っています。

また、多様な理由により教室離脱する児童が急増した昨年度は、それらの児童を「スマイル教室」で受け入れる体制を整えるとともに、児童一人ひとりの状況に応じた学習計画（時間割）を立てるなど個々の児童に寄り添ってきました。今年度は、離脱していた多くの児童が、教室で友達と一緒に学習を行っているのは大きな成果であります。

「スマイル教室」で多くの時間を過ごす児童の保護者も様々な不安を抱えており、その解消のために「スマイル授業参観」、「スマイル懇談会」を中心となって計画をしました。取り出し教育の中で、授業参観、懇談会を行い、保護者への理解を深めた実践は貴重であるとともに、本市の支援教育の充実につながる実践であります。

《被表彰者及び表彰組織の表彰の内容及び実践の概要》

教職員組織表彰

3 川崎市立大島小学校 校内授業研究会 (16ページ～)

【表彰の内容】

「地域へ愛着を持てる児童の育成」

【実践の概要】

当該研究会は学校教育目標「あしたも行きたくなる学校」を合言葉にし、生活科・総合的な学習の時間についての校内授業研究も、同時期に始まり、今年度で12年目を迎えます。

児童の思いや願いに寄り添うことを第一に、学年の児童の実態から始まる課題創造、課題解決型の教育活動のスタイルを積み重ねてきました。身に付けた資質・能力を、他教科や領域、そして日常生活でも、生かせるようにすることが大きな課題であると考え、校内授業研究では、地域とのつながりを深めるような単元構想やカリキュラムマネジメントにチャレンジすることで、地域に生きる大島小児童の資質能力を高めています。

大島小学校は、令和6年度に100周年を迎え、活動の発信の場の一つである「おおし祭」なども、保護者や地域の方は、とても楽しみにしています。飾ることのない子どもたちの姿を通し、教育活動の集大成をこれからも発信することが期待されます。

児童の主体的な学びを学校全体で最優先に考えて、その活動が継続できていることは高く評価できます。

4 川崎市立柿生小学校 (18ページ～)

【表彰の内容】

「全教職員が一体となつての教育理念の具現化に向けた取組」

【実践の概要】

令和2年度から「自己肯定感を高め自らの手で未来を切り拓く子の育成」と教育理念を掲げ、教職員がチームとなり、この教育理念の具現化に向けて学校教育活動を推進しています。教育理念の具現化に向けた学校教育目標を「知・徳・体」の三本の柱とし、それに応じ、校務分掌を「授業力向上チーム」、「自立活動支援チーム」、「児童支援チーム」の3委員会に分け、それぞれが取組を工夫しながら子どもたちの充実した学校教育活動へとつなげています。

「授業力向上チーム」は、研修を行い、授業を公開しています。総括教諭を中心に、若手の授業を見に行き、振り返りをすることで、授業力向上に努めています。

「自立活動支援チーム」は、児童の主体的な活動を推進しています。運動会などの学校行事や、創立150周年記念式典に向けたスローガンやマスコットづくりなど、高学年を中心に積極的に支援・サポートをしています。また様々な活動でギガ端末を活用した全校投票をするなど、児童の主権者意識の向上にもつながっています。

「児童支援チーム」は、教育理念に向け、子どもたちが互いに認め合い、多様性を尊重することや人権意識の啓発に努めています。

このように、各チームが児童を考えての役割を果たしており、全教職員が教育理念を念頭に置いた活動の実践は評価できます。

《被表彰者及び表彰組織の表彰の内容及び実践の概要》

教職員組織表彰

- 5 エネルギー・環境 子どもワークショップ実行委員会市内小学校担当教職員一同
(27ページ～)

【表彰の内容】

「子ども・教職員・地域が一体となるSDGsイベント」

【実践の概要】

エネルギー・環境子どもワークショップは、市内小中高校生が集まり、エネルギー・環境・SDGsについての学校での取組をワークショップ形式で発表し交流し合う、市内最大級のSDGsイベントであり、発表内容は、地域や企業・団体等と連携した実践に関するものが多く、地域の教育力の向上に寄与しています。

意見交流等を児童生徒が行い、最終的に記録誌を作成し、全市の学校や行政機関・企業等にも配布しています。また、保護者以外にも地域・企業・大学・行政機関等の幅広い分野から、おおよそ500名の参観者があり、参加児童生徒は、他校の児童生徒や大勢の大人と交流することで、SDGs推進への更なる意欲の向上につながっています。

ワークショップは市内小学校教員から実行委員を募り、企画運営の一切を行っています。実行委員会はSDGsや脱炭素の市内への普及に努め、コロナ禍においても中断することなく動画コンテンツ形式で開催しています。他校や地域・企業等の取組を知ることで、参加校教職員や実行委員会の教職員の意識啓発に大きく貢献しています。

- 6 川崎市立東住吉小学校 特別支援学級担任一同 (32ページ～)

【表彰の内容】

「これからの川崎市における特別支援学級の在り方の探求」

【実践の概要】

昨年度から「特別支援学級の教育」に焦点をあて、特別支援学級担任が中心になってこの研究を推進してきております。5学級のクラス編制をして、自立活動の目標や計画は一人ひとり個別に立て、教室環境を整えるとともに、サポートノートや自立活動計画書も利用しやすい形式に変更して作成しています。

研究の成果として、児童の実態がより把握でき、児童自身は授業に取り組む姿勢が身に付き、落ち着いて学校生活が送れるようになっていきます。また、それが児童の自信にもつながり仲間への声掛けや手伝いもすることが増えていきます。

研究の成果を受け、川崎全体の特別支援学級にもこの取組を広げたいという思いから、特別支援学級の授業、環境については、いつでも、だれでも参観できるような体制を整えており、外部からの参観者も増えていきます。

このような研究は川崎市でも初めてのことであり、特別支援学級担任自身が、研究に前向きに取り組む、成果を上げていることの功績は大きいと考えます。特別支援学級に在籍する児童の可能性、知的好奇心、学力をのばしていくために、川崎市における今後の特別支援学級の在り方について大きな指針となります。

令和5年12月26日
川崎市立日吉小学校
事務職員 山川 淳

令和5年度「教職員表彰」

取組内容報告

【表彰内容】先を見通した企画・立案の実現及び管理職・全教職員・保護者・児童も含めた丁寧な対応

取組①

校内実態に基づく学校徴収金業務の適正化・効率化・仕組化

→ 本日はこちらの取組を報告させていただきます。

取組②

配当決算の分析と教職員の共通理解に基づく予算の有効活用

1. 学校徴収金を取り巻く近年の状況

平成28年度 川崎市包括外部監査の結果報告書 平成29年2月

徴収・管理方法等について、11の指摘事項と32の意見

教職員の勤務実態調査（最終報告）（川崎市教委）平成31年2月

「負担感が強い業務」「教員が担う必要のないと考えられる業務」

新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について（中教審答申）平成31年4月

**基本的には学校・教師の本来の業務ではなく「学校以外が担うべき業務」
学校が担わざるを得ない場合には、学校事務職員等に移譲すべき**

「これまで学校・教師が慣習的に行ってきた業務の多くは、他にはっきりとした担い手が存在しないために実態として学校・教師が担うことになってきたもの」

2. 学校徴収金の徴収・管理の流れ



【課題】「学校徴収金に関する事務取扱の手引き」に沿った管理（適正化）と負担軽減（効率化）

課題① 手引きに沿った処理	校内での書式統一 / 作成漏れ防止
課題② 正確な計算処理	計算ミス防止 / 証明書類の保管・整合性確認 経験が少ない担当者へのフォロー / チェック体制確立
課題③ 書類作成・確認の効率化	複数様式の作成負担軽減 / 帳票類チェックの効率化 様々な事例対応・共有

3. 学校徴収金に関する取組①/7

課題① 会計書類のチェック内容の明確化、統一化



チェックリストの作成・運用

チェックリスト（チェック担当者用）

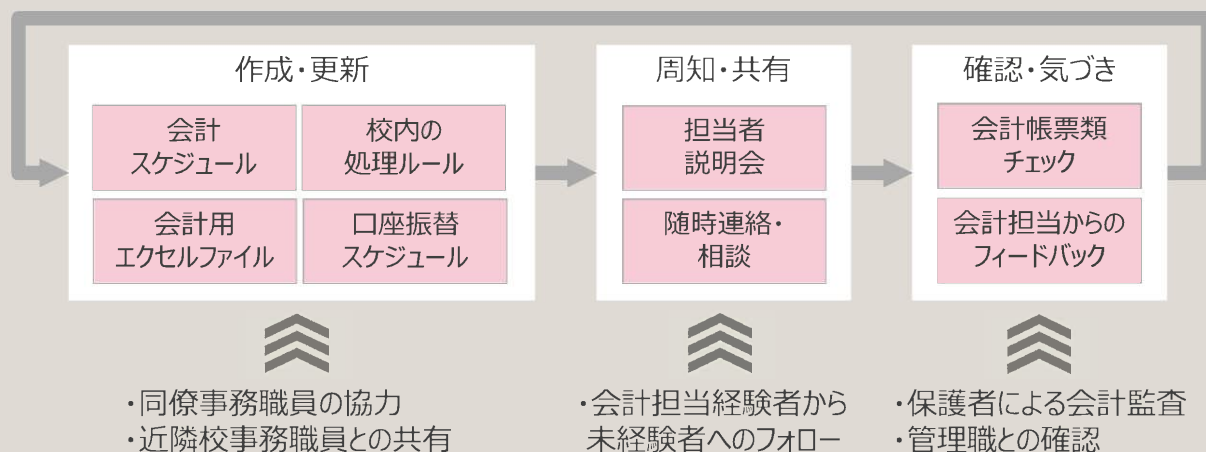
チェックリスト（学年会計担当者用）

期別	項目	確認事項
1	1	注文書が書き揃っているか
1	2	注文書が正確に書かれているか
1	3	注文書の金額が正確に書かれているか
1	4	注文書の品名が正確に書かれているか
1	5	注文書の数量が正確に書かれているか
1	6	注文書の単位が正確に書かれているか
1	7	注文書の支払方法が正確に書かれているか
1	8	注文書の支払期日が正確に書かれているか
1	9	注文書の支払口座が正確に書かれているか
1	10	注文書の支払金額が正確に書かれているか
1	11	注文書の支払金額が正確に書かれているか
1	12	注文書の支払金額が正確に書かれているか
1	13	注文書の支払金額が正確に書かれているか
1	14	注文書の支払金額が正確に書かれているか
1	15	注文書の支払金額が正確に書かれているか
1	16	注文書の支払金額が正確に書かれているか
1	17	注文書の支払金額が正確に書かれているか
1	18	注文書の支払金額が正確に書かれているか
1	19	注文書の支払金額が正確に書かれているか
1	20	注文書の支払金額が正確に書かれているか
1	21	注文書の支払金額が正確に書かれているか
1	22	注文書の支払金額が正確に書かれているか
1	23	注文書の支払金額が正確に書かれているか
1	24	注文書の支払金額が正確に書かれているか
1	25	注文書の支払金額が正確に書かれているか
1	26	注文書の支払金額が正確に書かれているか

前期用	帳票類提出前のチェックリスト（学年会計担当者用）		
年	学年会計担当		
「会計報告書類の提出」	書名	よくある間違い	シ点
1	納入台帳	徴収状況がすべて記載されている（空欄がない）ことを確認した 会計報告の日付が10月6日であることを確認した 学年全体の押印があることを確認した	
5	会計帳目	「会計報告」の前期経理と「会計出納簿」の残高が一致していることを確認した 注納があることによる不一致等、理由がある場合は必ず記入し、貼付した	
6	注文書	注文書NO.が日付欄で連携していることを確認した 必要な箇所に関する押印があることを確認した（支払いまで終わっている場合は3分簿） 注文書の「見積書」が添付されていることを確認した 物品の記載と納品書の目付が一致していることを確認した 品名・数量・単位・金額がすべて揃っていることを確認した 再発行の依頼などで発行できない場合は、その旨を必ず記入し、貼付した	
8-9	納品書 請求書	納品書・請求書がすべて揃っていることを確認した 再発行の依頼などで発行できない場合は、その旨を必ず記入し、貼付した	
11	金銭出納簿	残高にマイナスの行がない（立替払いしていない）ことを確認した 通帳の残高と一致していることを確認した 担当者の押印を確認した	
13	返金の証拠書類	台帳（注文書）とセットにして綴じてあることを確認した	
その他	全体	訂正があるときは二重線の上から押印してある（修正テープは使用していない）ことを確認した シ点を記入し、帳票類と一緒に提出していただく	

10. 学校徴収金に関する取組【まとめ】

「気づき」を適正化・効率化につなげる改善サイクル（仕組化）



自己肯定感を高める 支援のあり方について

別室（スマイル学習室）の支援から

スマイル 学習室



上丸子小学校
支援教育コーディネータ
橋永 孝子



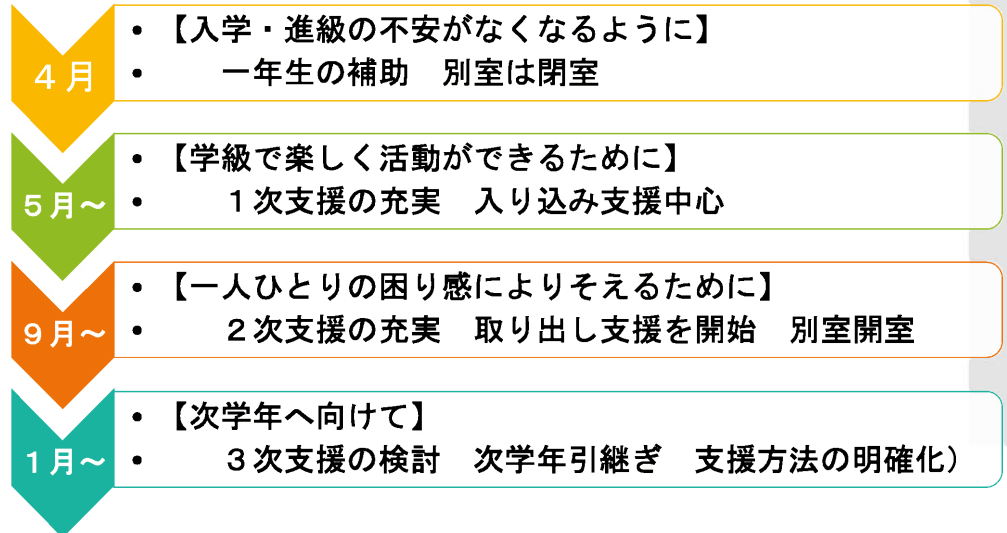
学校目標と 支援目標

【学校目標】

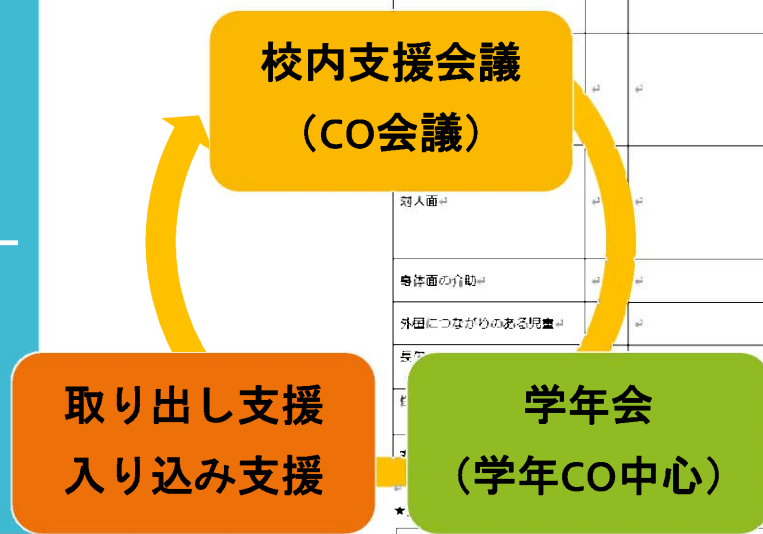
受容と共感で笑顔あふれる学校づくり

【支援目標】

どの子ども笑顔で過ごせる学校・学級づくり



学年 コーディネーター

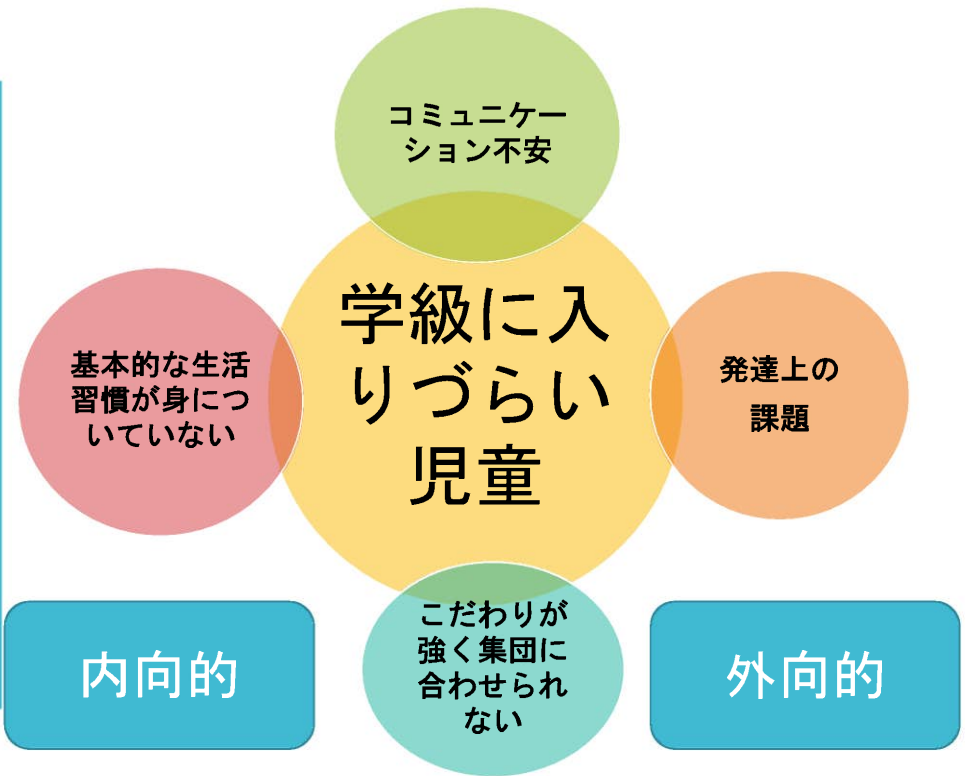


学年COの先方様
特別な支援が必要な児童について〇〇月〇(〇〇〇〇〇年) ←

※通常学級に在籍する特別な支援が必要な児童について、学年で共有しお知らせください

内容	人数	クラス・名前
学習面		
対人面		
身体面の介助		
外田につながる必要がある児童		

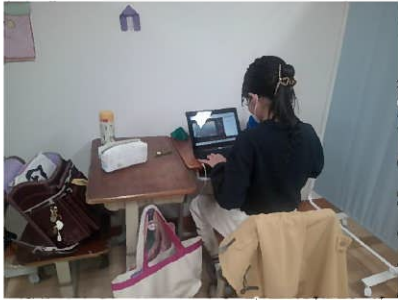
昨年度の
子どもたちの
様子



自己肯定感を
高める



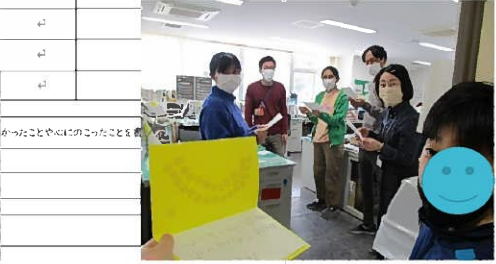
支援の体制について



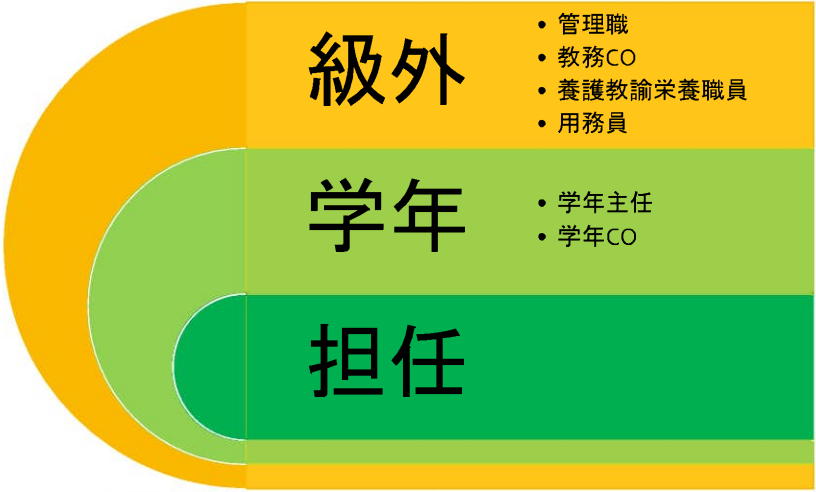
メール学習室
00(000)名
組00名前000
登校時間(00)



場所	内容
2	
3	
4	
給食	



職員間の連携



評価について

【評価について】

- 基本的には、各教科で2単元以上学習で評価
- 別室での学習、授業配信参加でも評価
- 学習活動ができない観点については／（斜線）

【所見について】

- 教室やスマイルでの学習の様子や成果物を記載
- 生活の様子もできるだけ記載する
- 道徳・外国語活動・総合は記載できない場合は空欄
（1時間でも参加している場合は記載する）

保護者への 支援

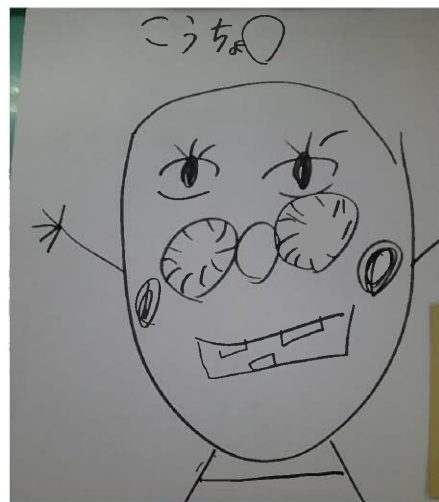
【スマイル懇談会】

【スマイル授業参観】

【関係機関との連携】

- ・ 学校巡回カウンセラー
- ・ SSW ・ 塚越相談室
- ・ 心の健康相談支援事業 ・ SNG

子どもたちの
成長を見て



すべての子が 笑って過ごせる学校

令和5年度 教職員表彰

地域への愛着を持てる 児童の育成

川崎市立大島小学校
校長 大窪 誠

学校目標

あしたも行きたくなる学校

12年続く校内研究

生活科・総合的な学習の時間

R5 研究テーマ

「児童の実態に即した単元開発と
カリキュラムデザインによる資質・能力の向上」

★単元開発

「自分事として課題に関われる子」

★カリキュラムデザイン

「学んだことをつなげて表現できる子」

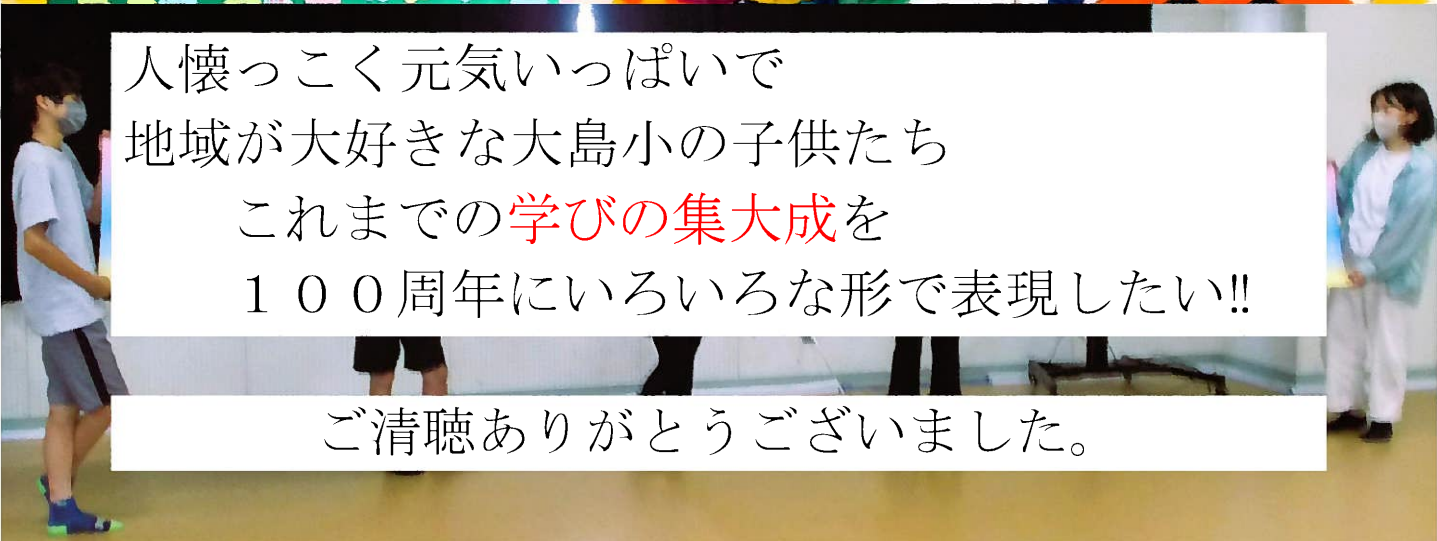
今年度の校内授業研究・各学年単元名等

上段：単元名 下段：探求課題

- 6年 **Y o u & M e = 私 は A r t i s t =**
アートの面白さと自分たちが残すメッセージ
- 5年 **めざせ！ 大島マスター2 ～過去・現在・つなげる100周年～**
大島の歴史とそこに住む人々の思いとこれからの自分たちにできること
- 4年 **O n e o f 大島 ～町を盛り上げ隊**
地域活性化に取り組む人々と自分たちにできること
- 3年 **P l u s U l t r a ～みんなに残したいみんなの大島～**
残していきたい地域の魅力
- 2年 **どきどき！ わくわく！ まちたんけん！**
- 1年 **たのしい あき いっぱい**



令和6（2024）年度に、大島小学校は、
川崎市と一緒に100周年を迎えます。



人懐っこく元気いっぱい
地域が大好きな大島小の子供たち
これまでの**学びの集大成**を
100周年にいろいろな形で表現したい!!

ご清聴ありがとうございました。

オール柿生のウェルビーイングの実現に向けて



全教職員が一体となつての
教育理念の具現化に向けた取り組み

令和5年 12月26日（火）

柿生小学校

校長	杉本	眞智子
教頭	支倉	圭太
教務主任	植田	基之
総括教諭	及川	優

川崎市立柿生小学校

校長 杉本 眞智子



大好きだよ
自己肯定感

大丈夫だよ
心配ないよ
安心感

ワクワクするね
高揚感



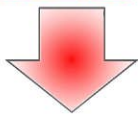
自己肯定感を高め、自らの手で未来を切り拓く子どもの育成

創立150周年 オール柿生のウェルビーイングの実現



学校教育理念の実現に向けて

自己肯定感を高め自らの手で未来を切り拓く子



そもそも自己肯定感とは？

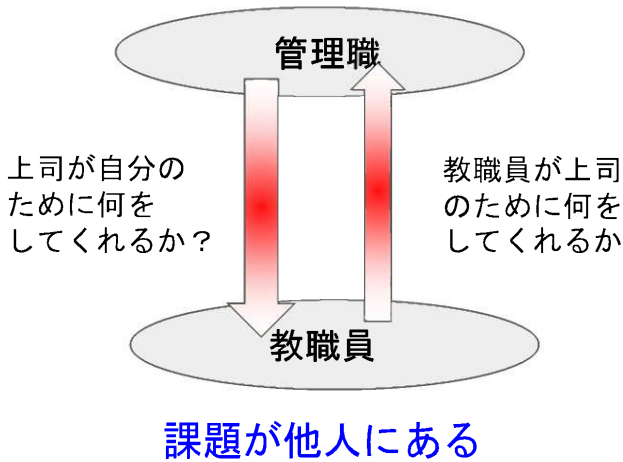
機能的な価値にもとづいたもの

**具体的な目標・目的を
乗り越えた時に生まれるもの**

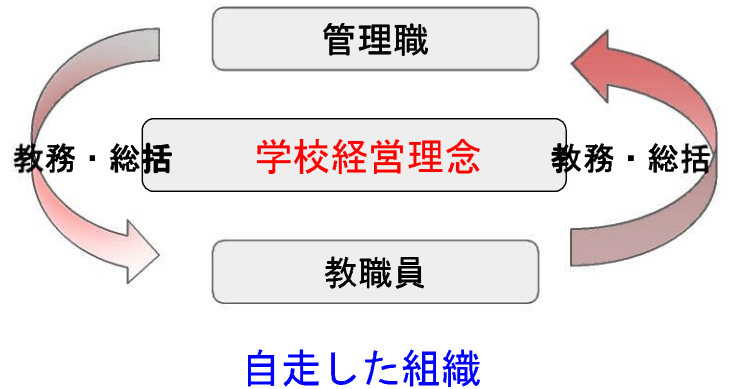
子供の学習の基盤は**問題解決学習**
教職員も**それぞれの仕事に対して問題意識**をもちを解決していく**姿勢・考え方が大切**

学校教育理念の実現に向けて

自立した組織を超えた 自走する組織

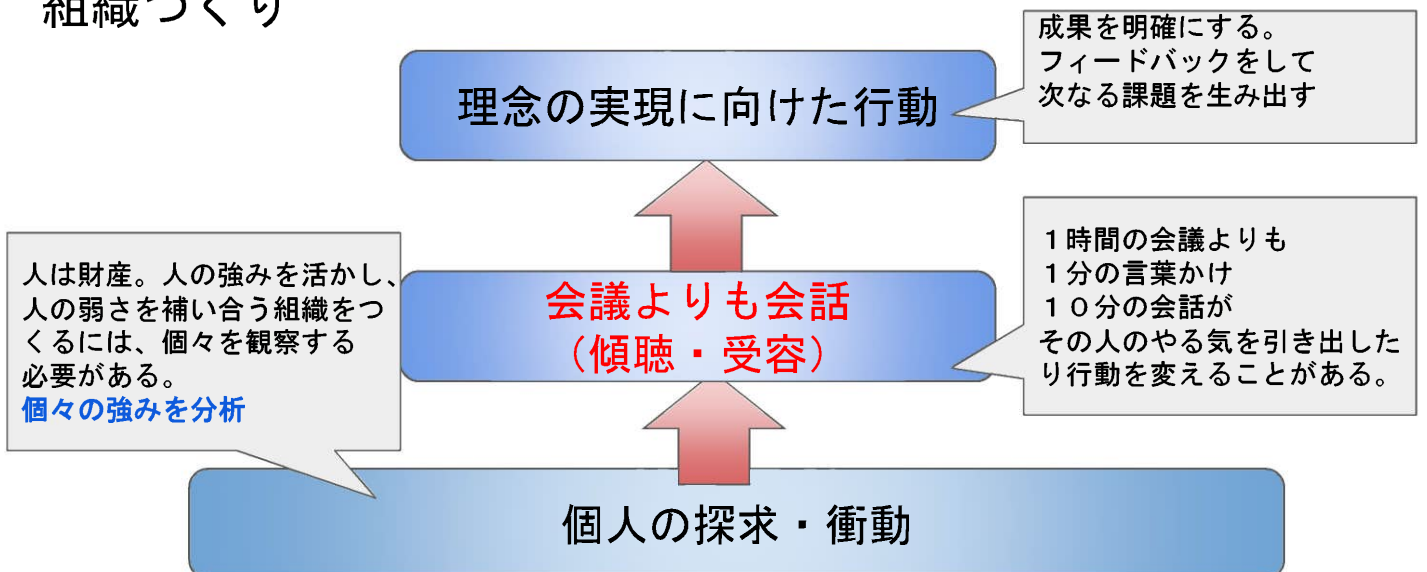


結果だけでなくプロセスにも着目同じ目線でつくり上げていく!



学校教育理念の実現に向けて


組織づくり



学校教育理念の実現に向けて

教員としてのあり方そして行動

Being（あり方・考え方）

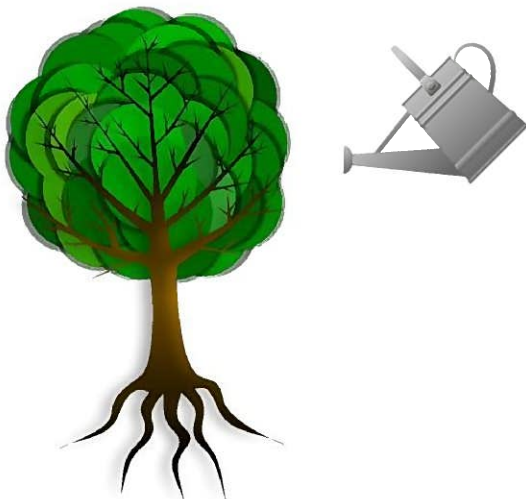
- ・ 仕事への向き合い方
- ・ 日々の習慣 
- ・ 理想とする教師像

Doing（行動）

学校教育理念の実現に向けて、自分軸をもって行動することが大切

人材育成

人材育成のポイント



- 生産性
- フィードバック
- 継続性 持続性

人材育成の中心には
管理職の理解・協力が必須

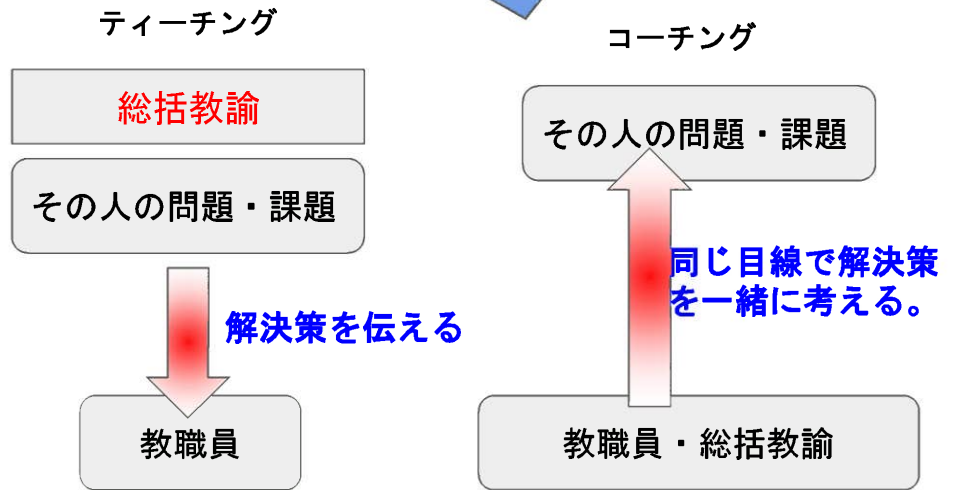


人材育成

★フィードバック



- ①自分自身でアウトプットしてもらう。
(会話は問いかけが中心)
- ②相手に憑依してコメントする。
- ③次なる指針を明確にする。



人材育成

★継続性

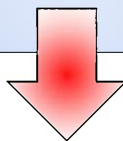
○臨任研修（月1回開催）

管理職が体系化
教務主任がマネージメント

○柿の種研修（月1回開催）

若手が自主的に行う研修
若手自らマネージメント

仕事自体の楽しさ・高揚感・挑戦意欲を引き出す



理論構築も大切だが、問題解決のための行動様式を身につける

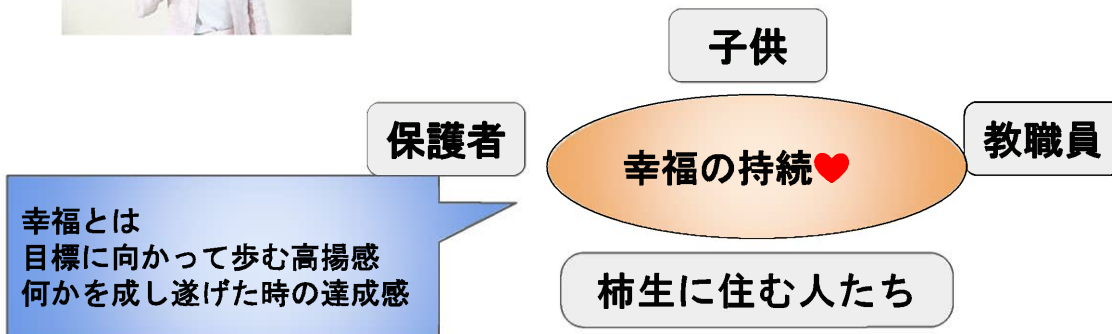


オール柿生のウェルビーイングとは・・・

令和5年度 柿生小学校創立150周年



オール柿生の**ウェルビーイング**の実現！！



ウェルビーイングの深化

- 今が楽しい
(個人・現在)
- これからの将来に希望を持てる
(個人・将来展望)
- クラスや地域の人々の幸せを願う
(社会・共生)
- この町・学校・世界を良くしていきたい
(利他性・公共・持続)

ウェルビーイングの深化



5

150周年記念Facebook

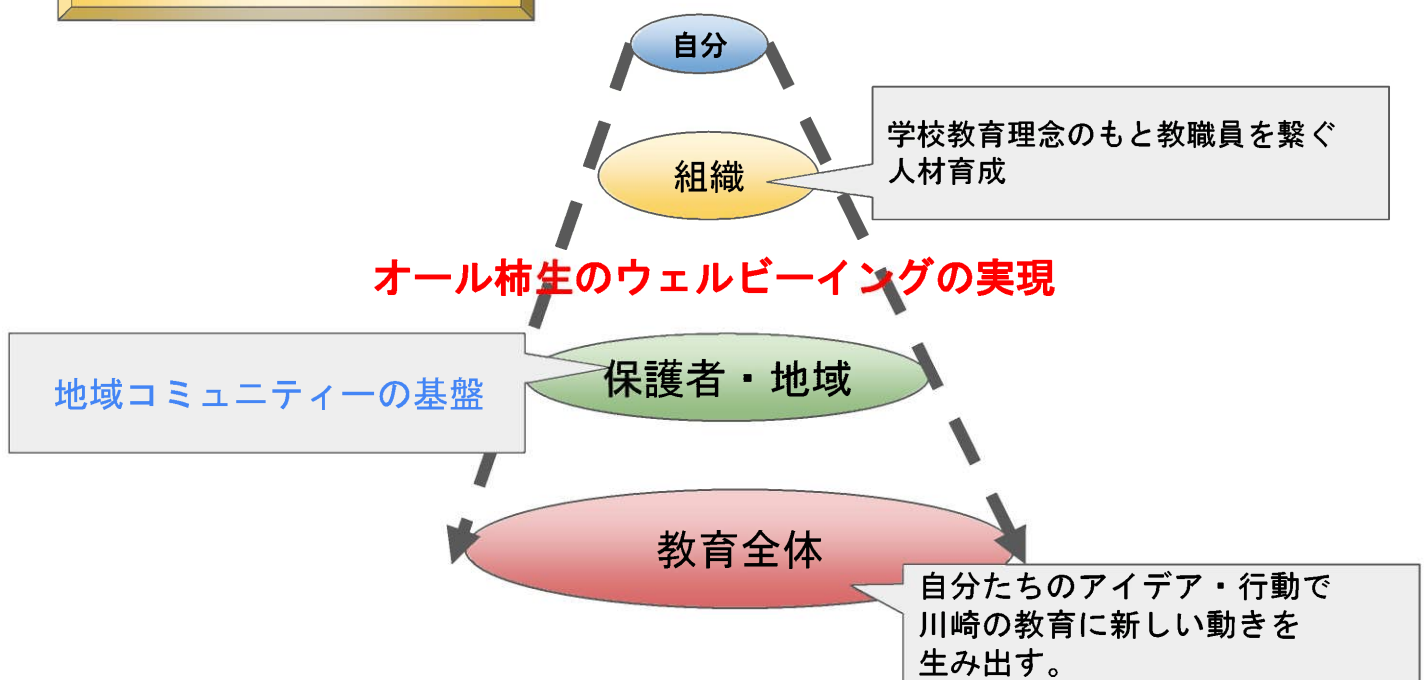


これまでの掲載採用

- 校長先生の挨拶
- 元巨人軍宮本投手からお祝いの言葉
- 柿生の里 ボランティアの方々へ取材
- 川崎麻生ロータリークラブから寄贈品いただきました。
- 150周年記念運動会
- 150チャレンジ
(教職員・保護者が様々な企画にチャレンジ)
- 柿生の歴史について
- 麻生観光協会会長から柿生の歴史について紹介 など



社会貢献





保護者・地域の方々も
柿生小学校が大好きです。



まとめ

存在価値

理念の実現にはリスク・失敗はつきものであり、成果とは長期的なものであるという認識にたち、お互いを尊敬し合う関係性を築く
(年代・立場を超えた関係性)



大丈夫だよ！
心配ないよ！

才能ではなく
真摯さ

機能的価値

一人ひとりの真摯さが組織としての大きな成果を生み出していく。
一人ひとりの真摯さを見つけ、価値づけ、繋ぐ
ジョブ型ではなくメンバーシップ型の職場へ！
(オール柿生というチーム)

ワクワク
する！



ご静聴ありがとうございました・・・これからもオール
柿生ですてきな学校をつくりあげていきます・・・



教職員のやる気・幸福感が
教職員・子供・保護者・地域
のウェルビーイングに繋がっ
ています。



エネルギー・環境 子どもワークショップ

【since2004】

【取り組み①】

○川崎市立小中高等学校において、
総合、理科、社会等様々な学習の中
で環境や資源・エネルギー、
SDGsについて関心を持って
取り組んでいる学校を募集し、
ワークショップを開催する。



【取り組み②】

○ワークショップに参加した子供を中心に、共通の目的をもって集まった子どもが意見交換したり、交流したりすることのできる場を提供する。



交流意見書

回収箱



【取り組み③】

○参加校の子どもが、アドバイザー
や来賓から指導講評をいただき、
記録誌を作成する。



多彩な発表方法



大人へ発信



子ども同士の交流



**エネルギー・環境
子どもワークショップ
【since2004】**

令和5年12月26日(火)

川崎市立東住吉小学校 研究推進【特別支援教育】実践報告

なるほど！ もっと知りたい！ やってみたい！

～特別支援学級の子どもたちがわかる・楽しい授業のための学級経営～



特別支援学級(けやき級)担任一同

特別支援教育の歩みと現状の課題

◎2007年4月、学校教育法に【特別支援教育】が位置付けられた。今年度で17年目。

- それまで障害児学級に行われていた教育が、
子ども達一人一人の教育ニーズを把握して支援するという特別支援教育に変わった。
- コーディネーターが専任化された。
通常の学級における支援、学校全体の支援体制づくりが、当たり前に行われるようになった。



- ◆通常の学級で学ぶことが困難な、より個別の三次支援が必要な児童が在籍する特別支援学級の学級経営や、教育課程の在り方についての研究や改善は大変少なかった…
- ◆特別支援学級に在籍する児童数は年々増加傾向にあり、その障害や状態像も多様化し、支援級の担任の多くが、指導の在り方や授業づくりに悩んでいる…

支援級の子どもたちにも、なかなか学力をつけることができない！



学校目標

「 **すなおな子 ・ こころやさしい子 ・ やる気がある子 ・ かんがえる子** 」

すなおな子 : 自分の良さに気づき、自己肯定感を高くもつ子

こころやさしい子 : 互いに認め合い・励まし合い・高め合う子

やる気がある子 : 主体的に粘り強く取り組む子

かんがえる子 : 自ら課題を見つけ考える子



研究主題

なるほど！ もっと知りたい！ やってみたい！

～特別支援学級の子どもたちがわかる・楽しい授業のための学級経営～



研究目標

特別支援教育の中でも、「特別支援学級の教育」について、支援級のクラス・教育課程の編成、学級・環境づくり等について、川崎市のこれからの特別支援学級の在り方についてモデルになることができるような研究に取り組む。

研究方法

- ①5学級（東住吉小学校が障害種別特別支援学級が5クラスのため）のクラス編成を行う。クラス編成は、主に国語と算数の発達段階で分ける。クラス担任は、教科等の授業を実施することを基本とする。
- ②5学級の教育課程を作成、クラスのカリキュラムと時間割をつくる。
- ③交流は、どの教科でどのような目的のために実施するのかを明らかにして、指導と評価の一体化を図る。
- ④自立活動の目標や計画を一人一人立てる。
- ⑤通常の学級と同じように、交換授業や合同学習等も実施する。
- ⑥5学級の編成に伴い、教室環境を整える。
- ⑦教科別指導を実施することに伴い、評価（のびゆくすがた）も通常の学級と同じように作成する。
- ⑧サポートノート、自立活動計画書も利用しやすい形式に変更して作成する。

研究の成果(児童)

- ★授業や学習に対する見通しがもてるようになり、落ち着いた学校生活を送れるようになった。
- ★授業に前向きに取り組む児童が増えた。支援級での学習や授業を楽しみにしている。
- ★授業に取り組む姿勢が身に付いた。結果、学習の深まりにつながった。
- ★夢中になって取り組み、児童自身が「できた!!」という達成感を感じられるようになった。
- ★「できること」が増え、児童の自信につながっている。
- ★通常の学級で学習（交流）する時間が増えた。
- ★クラスでの仲間意識も高まり、声をかけたり手伝ったりすることが増えた。



研究の成果(教師)

- ★教師は、授業に見通しをもって取り組めるようになった。教科書を使用して教科指導を実施することが基本なので、指導内容について悩むことがなくなった。
- ★児童の実態がより見えた。理解している点とわかっていない点が明確になり、児童一人一人の教育的ニーズ（指導目標や内容）がはっきりとして、担任の授業改善に結び付いた。
- ★特別支援学級における学級経営が明確になったことで、それぞれの担任が協力して学年経営を行えるようになった。
- ★特別支援学級の在り方についての研究が中心であったが、学校全体でその取組について学び、今年度は、通常の学級における特別支援教育の在り方（一次支援・二次支援）について研究を広げることにつながった。



研究の成果を受け、「川崎市全体の特別支援学級でもこの取組を広げたい」という思いから、特別支援学級の授業や環境については、いつでも、だれにでも参観してもらえるような体制を整えている。外部からの参観者も増えてきている。

研究をふり返って

特別支援学級の学級経営や教育課程等についての研究は、本市でも初めてのことであり、研究に取り組む前は不安な面も多くあった。しかし、研究を進めていく中で、子どもたちに大きな変化や成長が見られた。その姿から、この研究の方向性に自信をつけることができた。

そして今では、これらの成果を川崎市の特別支援学級の経営に生かしてほしいと考えるようになり、この研究を通して、深い学びを得ることができた。

